

コミュニケーション演習 3

【単位数:0.5単位, 授業10コマ】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

早稲田勝久 教授(医学教育センター)

2 教育目標

(1) ねらい (I-1-b, I-5-b, II-1-b, II-2-b, II-3-b, III-3-b, IV-1-b, IV-5-b)

- ① 本学のコンピテンスである「プロフェッショナリズム」、「コミュニケーション」、「診療技能」の基礎を学び、チームとして良好な関係を構築できる。
- ② 主要な症候の診察に必要な知識を学習し、その内容を活かした模擬診察を実施、診察に必要な知識とそのコミュニケーション方法について省察できる。

(2) 学修目標

- ① 症候学で学習した知識を用いて、模擬診察(医療面接)にて模擬患者を演じることができる。
- ② 症候学で学習した知識を用いて、模擬診察(医療面接)ができる。
- ③ 診察に必要な知識、コミュニケーション技術について自己・他者評価できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
態度	○	100%	医療面接(ロールプレイ)中の指導医からの評価(40%), 自己評価(30%), 他者評価(30%) 演習に対する態度が不良の場合は30点を限度に減点する。

出席: 演習を修得するためには、欠席をしてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

面談の上、課題・レポートを課す。

演習を欠席した場合は、面接後、補習又は追加レポートを課す。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

演習中に不足している部分は、担当指導医よりフィードバックをする。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
主要症候・医療面接がわかる	安田幸雄	テコム	コアカリキュラムで提示されている症候の医療面接でのポイントが解説されている。
考える技術 臨床的思考を分析する (第2版)	スコット・スターン他著 竹本 毅訳	日経BP	診断プロセスについて丁寧に説明されている。
診療場面のコミュニケーション	ジョン・ヘリテッジ, ダグラス・メイナード(川島理恵他訳)	勁草書房	会話分析という研究分野からみた医療面接について述べられており, 問い方とその答えについて具体例が多いため, 「目的をもった会話」の重要性を考えるきっかけになる。

6 準備学習 (予習・復習)

日常のコミュニケーションについて, 演習前後に振り返る機会を持つこと(1日あたり約0.5時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

コミュニケーション演習の前の時間に実施した症候学で学んだことをもとに, 医療面接をグループ間で行い, 病態を聞き出すためのコミュニケーション技能を学修する。

(2) 講義の内容

社会人基礎力として求められるコミュニケーションの基本と医療人として求められるコミュニケーションの特徴について考察する。